

令和5年度の学校評価（年度末評価）

本年度の 重点目標	<p>ア 感染症対策、食育、医療的ケア、防災防犯等、健康と安全に配慮した学校づくりを進める。</p> <p>イ 自立と社会参加に向けて、一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を追求する。</p> <p>ウ 主体的、継続的に研修に取り組み、専門性の向上と授業改善を図る。</p> <p>エ 地域の教育資源や外部の専門家と連携し、社会に開かれた教育課程をP D C Aサイクルで実施する。</p> <p>オ 全教職員の創意と工夫で多忙化を改善し、教育活動の充実を図る。</p>		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果
小学部	<p>・学びの楽しさを通して、興味・関心や人との関わりを広げる。</p>	<p>・一年先の具体的な目指す姿を保護者と共有した上で、指導・支援を行う。</p> <p>・児童が学びの楽しさを感じられるよう授業を工夫し、P D C Aサイクルのもと授業実践を進める。</p> <p>・安全で健康的な学校生活を送るための指導や環境整備をする。</p>	<p>・保護者や施設職員との個別懇談において、教育的ニーズの把握と情報共有を行った。</p> <p>・タブレット端末などICT機器の日常的な活用や地域の教育資源を活用した校外学習など、児童の学びの楽しさが増える授業実践を行った。今後も教材・教具を共有し、より充実した授業実践と多忙化改善につなげる。</p> <p>・緊急時に速やかに医療機関につなぐことができた。感染対策や防災など安全の見直しは継続して行う。</p>
中学部	<p>生活に結びつく学力を育てる。</p>	<p>・授業改善のアプローチを教職員間で共有し、生徒の「わかる」「できた」「もっと知りたい」につなげていけるように授業実践に努める。</p> <p>・学習意欲を喚起する個々への支援方法、授業の進め方、環境作りなどを考えることで、よりよい授業実践に努める。</p> <p>・教職員間で連携をとり、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業実践に努める。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことで、対面式の学習とコロナ禍で活用したICT支援機器を活用した学習を両面からアプローチすることができた。</p> <p>・O J Tを活用し、教員同士が活発に情報交換し、教材・教具を活用、共有することで、生徒の興味・関心を引き出すことができた。</p> <p>・来年度は教職員同士の情報交換だけでなく、生徒同士の理解の共有も含め、「つながり」を意識した取組を進める。</p>
高等部	<p>卒業後の生活につながる力を身に付ける。</p>	<p>・生徒のよさや可能性を引き出し、発展や定着を図る授業実践に取り組む。</p> <p>・成人としての自立や社会参加に向けた学習内容の整理をする。</p>	<p>・自発的な動きを引き出す取組やオンラインツールを活用した実践など、個々の学習目標に応じてICT機器を活用した授業実践が増えた。ICT機器の活用以外の手だての利点も生かしながら学習活動を一層充実させていくことが今後の課題である。</p> <p>・進路に関する情報交換を保護者や関係機関と丁寧に行えた。今後も卒業後の生活を考慮した部の行事について検討と整理をしていく。</p>
訪問教育	<p>人や物と関わる力を育てる。</p>	<p>・一人一人の興味・関心、生活年齢や発達段階に応じ、充実した授業ができるようにする。</p> <p>・学校行事への参加、友達と関わり合う授業、訪問教育交流会など、個に応じた形での学習活動を進める。</p> <p>・児童生徒が心身ともに安定して授業に臨めるようにする。</p>	<p>・幅広い教材・教具の活用と、オンラインを活用した友達と関わり合う時間の設定を継続した。</p> <p>・社会見学の学習で、適時友達と関わり合う時間を設定した。</p> <p>・教職員間で情報交換を行い、個々の授業において友達と関わり合う時間を含めた幅広い教材・教具を活用する。</p>
総務	<p>関係諸団体への作品の出品を通して、教育活動を保護者や地域に伝える。</p>	<p>・出品作品数を増やすために相手方と年間を通しての予定を組み、早い時期から校内に周知できるようにする。</p> <p>・校内掲示板の教育活動を伝える写真などを学校記録「さわらび」と連携して定期的に交換する。</p>	<p>・地域の企業や市の作品展に多数の作品を出品することができた。保護者や地域の方々に教育の取組の一部を伝えることができた。</p> <p>・校内掲示板の内容を充実し、保護者や来校者に教育活動を知っていただく工夫ができた。</p>
教務	<p>新学習指導要領を踏まえた指導の充実を図る。</p>	<p>・年間指導計画がP D C Aサイクルで実施できるように書式の検討をする。</p> <p>・新学習指導要領を踏まえて学習活動及び評価の充実を図る。</p>	<p>・教科会や領域会などで年間指導計画について検討を行い、新書式を作成することができた。来年度から運用し、改善しながらよりよい書式にしていこう。年間指導計画を活用し、授業の評価・改善を行い、授業実践に取り組みたい。</p> <p>・3観点に配慮した評価の周知を行った。引き続き行っていく。</p>
生活指導	<p>・児童生徒の心の健康状態を把握する体制を整える。</p> <p>・安全にスクールバスが運行できる。</p>	<p>・心の健康についてのアンケートを実施する。</p> <p>・関係者との連携を強化する。</p>	<p>・アンケートの実施方法と内容を考え、分掌内で意見を集約し、まとめた。来年度に始められるよう進めている。</p> <p>・安全にスクールバスを運行することができた。学校の関係職員との連携は、確実に伝わるような方法を検討していきたい。</p>

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果
研 修	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員それぞれの研修を進めやすくする。 ・文書やファイルの整理を進め、業務の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が研修に積極的に取り組めるよう、校内・校外における各種研修について情報を発信していく。 ・各ファイルの場所が分かりやすいように、項目を整理していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示板や校内グループウェアを利用して各種研修の案内を行ったほか、各職員室での掲示や連絡を行うなど、情報の周知を図った。 ・通知文を整理し、閲覧しやすいようにした。データファイルも含め、今後もさらに整理を進めていく。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大防止に努め、児童生徒・職員が安全安心に学校生活を送ることができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に本校独自のガイドラインの見直しを行う。 ・状況に応じて学校医や保健所など関係機関と連携し、検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月末にガイドラインの見直しを行った。引き続き関係機関と連携を図りながら、ガイドラインの見直しを行っていききたい。 ・感染の兆しが見られたときには校医に相談した。学級閉鎖が数件あったが、部や全校に広がるような感染拡大は見られなかった。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・進路選択や卒業後の生活に役立つ情報を児童生徒や保護者、職員等と広く共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の講師を招き、障害者を取り巻く社会情勢や進路選択に役立つ情報を提供する。 ・学校ホームページや掲示板などさまざまな手段を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就労継続支援事業サービス管理責任者と卒業生を招き、在校生や保護者に向けて卒業後の生活や進路選択についての講話会を実施した。 ・地域の自立支援連絡協議会に参加し、進路指導や医療的ケアについての情報を共有した。 ・職員を対象にした進路指導に関する研修を充実させ、学校全体で進路指導に取り組むことができるようにしたい。
図 書 視 聴 覚	<ul style="list-style-type: none"> ・目的の本が探しやすい図書館作りを目指す。 ・業務を分担、精選する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表示やレイアウトを工夫してどこにどのような本があるか分かりやすくする。 ・業務内容を見直し、適切に分担する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・館内の本を段階的に除架し、本棚の空間に余裕をもった本の配架を行った。年間貸出冊数は前年度より、1,629冊増加した。令和3年度より、3,176冊の増加となった。新規開架図書(過去7年分)利用調査のデータに基づき、館内と準備室のレイアウトの改善を行い、教科に関する本の利用率を上げた。今後も、学習・情報センターとしての機能を向上させる。 ・業務を見直し削減を図った。今後も、業務を精選し、重要度の高い業務に取り組むようにする。
情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員がスムーズに情報機器、情報システムを操作できるようにする。 ・児童生徒用 iPad の運用を円滑に行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器、情報システムを学校の教職員が操作しやすいようにマニュアル化する。 ・校務支援システムや研修等を利用し、校内の教職員に運用方法を分かりやすく周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器や情報システムの操作ができる教職員の数が昨年度に比べて増えた。来年度は更に増えることが理想である。 ・資料を作成し、校内の Web 掲示板で教職員に周知することで情報の共有が行えた。全員の職員に更なる共通理解を図ることができるようにしたい。
自立活動	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の教育的ニーズに応じた支援や自立活動の指導ができるよう、情報の共有に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの分掌と連携を取りながら、児童生徒、教職員が相談、利用しやすい環境を整える。 ・校内研修や外部の専門家を招いての相談活動を行い、広く校内に伝達する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動室の環境整備を行い、授業などで使用しやすいようにした。 ・コミュニケーション機器の活用方法の紹介や、貸し出し方法の見直しを行い、周知した。 ・今後は、各種相談や、職員研修の充実を図りつつ、全職員が気軽に相談できる環境や方法を考えていきたい。
教育支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の学校や校内への支援を継続的に行い、教育支援機能の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談や支援・指導検討会では十分な情報提供と丁寧な相談活動を実施する。また、本校の教育相談や研修会の案内を積極的に行う。 ・校内外に、支援具や支援方法等を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期に相談活動で訪問した学校から再度の相談依頼があった。再度ケース会を行ったことにより、さまざまな視点で助言ができた。 ・相談活動で訪問した学校で本校の研修会の案内をし、複数の参加者があった。これからも地域の学校の力になれるよう、丁寧な相談活動とニーズに沿った研修に取り組んでいきたい。 ・本校の教職員に向けて障害者支援についての書籍を紹介した。多くの教職員が手に取りたくなるよう、紹介や周知の方法を工夫していきたい。
総 合 評 価		<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したものの、感染症拡大予防対策を精選しながら継続することで、児童生徒の健康を守りながら教育活動を広げることができた。 ・県の事業を活用した校外学習や事業所と連携した校内実習など、地域と関わりや共同学習を再開し、児童生徒が主体的に活動できることを目指した。 ・教材・教具やICTの活用などについての教職員研修を行い、授業実践につながる力を高めた。 ・前年度より継続している多忙化解消について、全教職員が意見提案や検討を重ね、可能なものから実施した。タイムマネジメントを意識したり業務の効率化を工夫したりする様子が見られている。次年度も継続して取り組んでいく。 	